



【造船技術研究プログラムⅢ-1(1・2回目)】



《目的・ねらい》

〔目的〕 研究施設における船型の開発を目的とした試験を体験することにより、船舶の研究への興味・関心を高めるとともに、基本的な知識を身に付ける。

〔ねらい〕 船型の研究開発の基本的な内容を理解する。

《実施内容》

◆ 回流水槽における製作した模型船の抵抗試験

○ 日時 平成30年5月23日(水)・6月20日(水) 1～6限目

○ 場所 株式会社新来島どつく 船型研究所

○ 対象 機械造船科3年生 2班 (各班5名)

- 取組
 - ・ 模型船(約2m)の船首部の製作(事前に実施)
 - ・ 地元企業の回流水槽における抵抗試験
 - ・ 試験結果のまとめ・船型についての考察



《講師》

株式会社新来島どつく 船型研究所 片岡 史朗 所長
船型研究所 所員の方々

《生徒の感想・学んだこと》

- ・ 船首バルブの有無で、抵抗に大きな違いの出たことが印象に残っています。船首バルブの魅力に気がきました。
- ・ 数種類の模型船を用いて回流水槽試験を行うことにより、どのような船型がよいのか理解することができました。
- ・ 自分たちのつくった船首バルブ付きの模型船よりも、船首バルブなしのモデルシップの方が抵抗は少なかったため、付ければよいという訳ではないことが分かりました。



《企業の方のコメント》

高校生ならではの発想に期待していたが、思ったよりもよくできていた。また、生徒はよく動き、熱心に取り組んでいた。

《SPH推進アドバイザー岡田さんの助言》

自ら製作した模型船で試験を行い、データの分析をすることで、船型開発の初歩を学ぶことができた。また、生徒の主体的に取り組む姿が見られたことがよかった。

《成果・今後の課題》

生徒一人一人が主体的に取り組むことで新たな知識・技術をしっかりと習得することができました。今後も課題解決に向けて自ら考え行動する姿勢を大切に、取り組んでいきます。

